



船橋市議会議員（市民共生の会）

浦田秀夫通信

自宅 船橋市松が丘 4-31-5 TEL・FAX 047- 466-6019

事務所 船橋市高根台 6-38-9 TEL・FAX 047- 461-1350

号外（2018年6月） メール urata.hideo.1950@gmail.com ブログ浦田秀夫で検索

医療センター初診料加算

5倍の値上げを提案

平成30年度市議会第2回定例会が5月24日から6月27日までの会期で開かれています。

市長からは医療センターに関する条例改正案が提出されています。

条例改正の一つ目は、医療センターに医療の質の向上や専門性をより高めるために、腎臓内科及びリュウマチ科を設置するものです。

腎臓内科は腎炎、ネフローゼ症候群及び腎不全等腎疾患の専門的な治療を行うもので、リュウマチ科は関節リュウマチを始めとする膠原病疾患の専門的な治療を行うもので市民にとっては朗報です。

しかし、一方で紹介状のない初診患者の初診加算料が、10月1日より現在の810円から内科の場合5,400円に、歯科の場合3,240円と大幅に引き上げることが提案されています。

国は、病院と診療所の機能分担及び連携のため紹介状のない初診患者らに対し、初診加算料を徴収することとしています。

平成29年度までは一般病床500床以上の地域医療支援病院を対象としていましたが、平成30年4月から対象が400床以上に引き下げられたため、一般病床が449床の医療センターが対象となったものです。

変わる医療センターの性格

医療センターは、設立の経過や市内に公立病院が他にないことなどから、救急・高度医療病院と一般外来患者を断らない市民病院としての性格を有していましたが、初診加算料が大幅に引き上げられることによって、一般外来患者が



大幅に減少することが予想され、病院の性格が大きく変わることになります。

千葉県では市内には市立病院が2個所の他、県立、国立、大学病院など11の公立病院がありますがそれぞれが、総合病院でありながら得意の分野を持ち機能が分散されています。

地域の診療所と公立病院の機能分担を進めることは理解しますが、公立病院が一つしかない船橋市では段階的な取り組みが必要です。

初診加算料の大幅な引き上げによって、平成29年に6,498件あった紹介状のない一般外来患者の公立病院での受診が大きく制約されることとなります。

市民生活相談所

お困りのことがあれば何でもお気軽にご相談ください。生活のことや、医療・介護、子育て、教育、地域の問題などご相談に応じます。



法律や税金、消費者問題などについては専門家や機関にとり継ぎます。

毎週、月・水・金の午後1時から4時まで事務所で伺っています。

ご相談がある場合は事前にご連絡ください。

ごみ収集回数見直し問題

意見・要望が続出

5月10日夜に高根台公民館で開催された家庭系可燃ゴミの収集回数を週2回に見直す市の説明会に参加しました。

市民の関心の高さを反映して多くの市民が参加し、質問や意見も続出し予定時間を超えて9時30分まで行われました。

率直な感想を述べると市の説明が長すぎたことです。全体の予定時間2時間の内、1時間30分を市の説明に費やしました。

市の一方的な説明に時間をかけ、市民の疑問や意見に耳を傾ける姿勢に欠けていると言わざるを得ません。

数字を使った説明は一見もっともな説明に聞こえましたが、不都合な数字の掲載や説明がありませんでした。

不都合な数字は示さず

例えば、一人当たりの可燃ごみ量が、県内他市や中核市との比較で多いとの数字です。

県内で中核市の柏市は1日1人当たり353gですが、船橋市は520gと170gも多いと強調していますが、船橋市は可燃ごみの15%を超えるプラスチック類を可燃ごみとして収集し焼却しています。

柏市はプラスチック類を分別収集していますが、船橋市も分別収集すれば一人当たりの可燃ごみの量はほとんど変わらないはずなのにそうした数字や説明はありませんでした。

また、家庭系可燃ごみの中に相当数の事業系可燃ごみが混入していますが、どの程度混入しているのか、その対策も説明されていません。

市民の理解を得ようとするのであれば、不都合な数字も示し、市民の声を聞く十分な時間を取って行うことが必要です。

分別の徹底や資源ごみの回収を

参加した市民からは、「ごみの減量は必要だが、分別の徹底や資源ごみの回収をまずは行うべきだ」「夜間収集地域の収集開始時間を見直してほしい」「高齢者の多い地域では戸別収集を検討してほしい」などの意見や要望が出されました。



子育て世代からも切実な陳情

第2回定例会に船橋市保育園父母連絡会事務局長名で、ゴミ収集回数削減に関する陳情が出されています。

陳情の内容の一つは「共働き世帯は、特に夜間収集地域やごみ出し時間が決まっている地区では、収集時間まで帰宅できず、ごみを出せない日もありとても負担が増します。収集回数の削減ではなく、まずは市民が分別や減量に取り組みやすい環境の整備を進めてください。」というものです。

二つ目は「夏場に紙オムツ4日分を廃棄できない環境は不衛生であり悪臭も発生します。収集回数を削減する場合、現在保育園から持ち帰っている使用済み紙オムツを各園で廃棄できるよう検討して下さい。」というものです。

議会や市は、こうした子育て世帯の切実な声に耳を傾けるべきです。

議会改革の遅れに喝！

5月14日、講師に早稲田大学名誉教授の北川正恭氏をお招きし「地方創生時代の議会の役割～船橋市議会に期待する～」と題して議員研修会が行われました。

北川正恭教授は、三重県会議員、衆院議員、三重県知事などを歴任した経験・エピソードを紹介しながら、地方創生時代、議会と執行部が独立した機関として対等の関係で競争、牽制しあうことが必要で、議員個人でなく議会として市民から尊敬される議会にならなくてはならないと強調しました。

議会基本条例が制定されていない船橋市議会の現状を「全国の議会の中でも改革が遅れている」喝をいれていただきました。

地方自治の二元代表制に基づき議会運営の原則を定める議会基本条例、今回の研修会を契機に副議長の立場からその実現に尽力したいと思います。